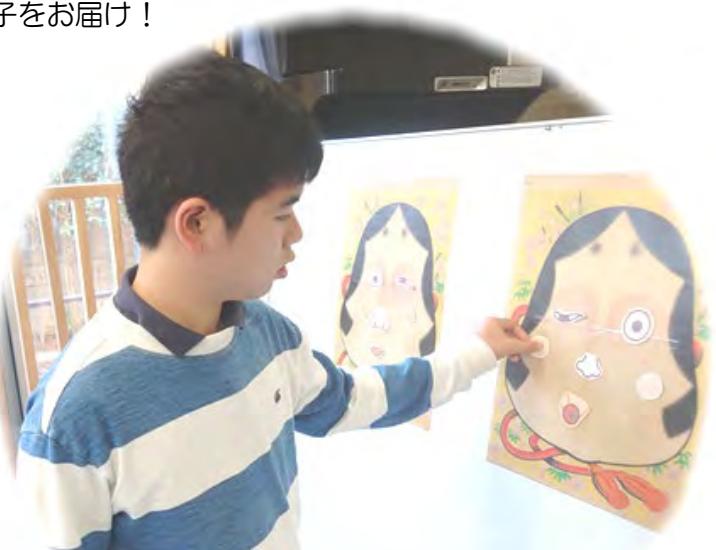




社会福祉法人おおぞら会 広報紙
SSKP はばたけだより
vol.152

「あすはKids」には毎日10人ほど
の子どもたちが通っています！
今回は新年号ということで、毎年のお正月の様子をお届け！

あすはKids (放課後デイサービス事業)



お正月といえば…の福笑いにもチャレンジ。難しいかな…と思いましたが、職員が遊び方を教えると、かなり熱中！面白い顔ができるとニコニコ！まさに福笑い！今年も笑って過ごせますように！

毎年の初詣は、今若い方にも人気の調布深大寺や小金井神社と近隣の神社やお寺に行きます。手水や参拝の作法を職員が教えると、上手にまねて一緒に参拝。初詣の後は参道散策もお楽しみのひとつ。寒い中でいただく出店の焼きたて蒸したてのお団子やお饅頭はほっこりします。

普段やらないことや初めてのことというものは不安もありますが、新鮮さもあり、やってみたら『案外楽しかった』ということは皆さんも経験があるかと思います。

遊びや仲間との時間の中で、子どもたちが自然とチャレンジし世界を広げていけるよう、あすはkidsでは今年も「遊び」を通して色々な「経験」を積み重ねてもらいたいと思います。

(支援員 渡邊智博)



社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

社会福祉法人おおぞら会に様々な形でつながり応援をして下さる皆々様、新年あけましておめでとうございます。新しい年が、皆々様にとって飛躍の年になりますよう、お祈り申し上げます。

すぐる2025年は、猛暑の日々が続き、また各地で熊の出没が相次ぎ、多くの犠牲者が出た年でもありました。世界規模で「異常気象」が報告され、地球が悲鳴を上げている結果としての「猛暑と熊の出没」のように思えてならない一年でした。

おおぞら会は、2025年度が始まって以降、今日まで利用者の皆さん元気に通ってきて下さり、また保護者の皆様からは変わらぬご支援をいただきました。そして、後援会はじめ、私たちの実践を応援して下さる方々からは貴重なご寄付を賜わりました。本当にありがとうございました。職員一同は、皆々様からのご期待に応えるべく、支援の内容・方法に工夫を重ね、日々の実践を積み重ねてまいりました。これらの全てが合わさって、やっとここまでやって来ることが出来ました。3月まで続く2025年度を乗り越えるべく、さらに努力と工夫を重ねたいと思いますので、何とぞ変わらぬ応援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

法人の新しい年の最初の出来事として、二つのグループホームユニットが2月に移転をする予定です。現在ある「さくらハイツ」と「つなぐなかまの家」の建物老朽化等の課題から数年前より計画しておりましたがなかなか前進しない日々が続き、暗礁に乗り上げそうになったこともあります。この度オーナー様のお力添えをいただき計画を進めることができました。これにより三鷹市大沢の地域に4つのユニットが集結でき、また若干名ではありますが増員もできることとなり、新たなニーズに応えることも可能となります。人手不足の中で事業をどう維持継続また発展させていくか悩ましい現状もありますが、法人の理念とビジョンに沿った事業運営ができるよう心新たに開設を迎えたいと思います。おおぞら会の諸事業を利用して下さる皆様の日常を維持していくために、コロナ禍以降いくつもの壁に直面しましたが、一つ一つ何とか乗り越えつつあるのではないかと思っています。まだ油断はできませんが、関わる全ての皆さんの健康が守られ、平穏な日々が続きますよう祈るばかりです。

話は変わりますが、認知症の高齢者の皆様や知的障がいのある皆様が平穏に暮らせるよう、私たちは精一杯の事業運営をしていますが、世界に目を向けると、いまだに「武力によって強引に」何かを解決しようという空気が漂い、実際に各地で戦闘が行われ、多くの犠牲者が出ています。私たちの仕事は、平和な社会が存在することが大前提で成り立っていると思います。勇ましい言葉にあおられず、会話と妥協、譲り合いで物事が解決していくことを切に願っています。平和のないところに、知的障がい者や認知症高齢者の皆様と、ご家族や支援スタッフの平穏な日常はないと思って仕方ありません。2026年こそ、何らかの「解決」のきざしが見える日がくることを願うものです。



野ざきの家の壁面創作…カラーでないのが
残念ですが、きれいな紅葉にほっこりです。

野ざきの家

【小規模多機能型居宅介護】

野ざきの家に登録をされている方は、「要介護」認定を受けた方でありその多くが認知症です。その症状と付き合いながら“これまでの暮らし”をどう続けられるか…が野ざきの家の支援の軸となり、通いや訪問、泊りを組み合わせて地域生活を見守っています。

野ざきの家の「通い」は、一般的にデイサービスと言って思い浮かべるであろうレクリエーションなどの固定化した“プログラム”はありません。その方のこれまでの暮らしや心身の状態に合わせ、緩やかに過ごす中で「こんなことをやってきたんですね」「これが好きだったんですね」というコミュニケーションと、そこから生まれる活動を大切にしています。

例えば食事会の相談…急に「何食べたいですか?」「得意だった料理は何でした?」と聞いても、唐突過ぎて会話が続きません。認知症や加齢によって記憶や思い出を言葉に出しにくくなっている影響があります。でも、ゆったりした時間の中で、料理の本やチラシを見ながら引き出すと、会話が弾んで自然と次から次へ想いをお話ししてくれ、食べたいもの、好きなものが見えてきます。高齢、介護ということで「刻み食で…」「脂っこいものは…」「糖尿病があるので」とどうしても食の楽しみが狭まって(またはこちらが狭めて)しまいがちです。でも、好きなものをみんなで楽しく食べることは日々の生きる原動力になるので、野ざきの家に来た時には、食事の温かさや季節や匂いを感じて「一人じゃない」と思えるように、丁寧なやりとりと工夫を大事にしたいなと思っています。



肩もみをしてもらっているほうが職員です…恥しからず…

また、今利用されている方で、肩もみやマッサージが得意な方がいます。私の姿を見るなり「疲れてないか?」「倒れてはみんなが困るから少し休んでよ」と肩を揉んでくれます。傍からみたら「それって逆じゃないの?」と思われる光景ですが、その方の想いを考えたら「肩もみをすることで人の役になっている」という満足度に繋がるのでは?と考えられます。私たちの中には基本的に“ご本人のために私たちが何かをする”というベクトルがありますが、それだけが支援ではないのでは?とその方のいきいきとした姿を見て、あらためて思います。

野ざきの家の理念にあります「いつまでも自分らしく、ありのままで」の実践は、一人一人の状態・状況に応じて変化していくもので、この緩やかな時間の流れをいつまでも大切にしていきたいです。

(管理者 齋藤貴彦)

工房時

【就労継続B型】

工房時では、自家製面のうどん屋「おもむく食堂」

焼き菓子などの製造販売をしています！

…詳しくはHPをご覧ください…

工房時では、11月に恒例の日帰り旅行で東武動物公園に行きました。普段はうどん屋さんの製造や接客、お菓子づくりで納品に追われ、お仕事中心の工房時ですが、この日ばかりは仕事を離れて過ごす特別な一日。みんな楽しみにしていました。

どこへ行こうか…という段階からが行事の始まり…「意思決定」の取り組みの中で、気持ちを高めて楽しみを膨らませていきました。

3つの候補地を動画で紹介し、その中から多数決で選んでもらうこと。現地での過ごし方についても、動物園と遊園地のどちらにするかを各自で選ぶ形にしました。自分で決めたことが「楽しい時間を過ごした」という良い経験につながる…こうした好循環は、きっとこれから暮らしの中に活かされることだと思います。

(管理者 中野昭精)



アクティビティセンターはばたけ(生活介護)

*はばたけ秋まつり ~緑のなかで

少し暑さが残る9月末に地域の方々をお招きし“はばたけ秋まつり”を開催しました。当日はやや曇り空で心配していましたが、恒例のはばたけダンスチームから元気にスタートし、最後のゲスト「ちくわぶ」さんの優しい歌声が終わったタイミングでパラパラと降り始めました。



庭先のベンチで緑の中くつろいでいただき、模擬店のトムヤムヌードル、フランクフルト、サモサ、アイス、てづくりパンを楽しみ、1階のキッズコーナーやボッチャ体験も、ボランティアの方々のご協力で子どもたちの楽しそうな声が聞こえ、はばたけらしい空間となりました。秋まつりを通して活動内容や製品の紹介なども行い「はばたけってどんなところ？」を感じていただける貴重な機会となりました。

*はばたけ日帰り旅行 ~ 紅葉の生田緑地へ

ちょっと足を延ばしての出でかけ企画…日帰り旅行はみんなの楽しみのひとつ。今年はどこに行くの?とワクワクの声が聞こえる中、今年の行先は…???

大阪まで行くには遠すぎる?でも話題の万博を感じたいよねということで、4つのグループに分かれ生田緑地にある

岡本太郎美術館に行ってきました。4回とも天気に恵まれ、紅葉しているベストタイミングでした。館内では太陽の塔や特別展など普段と違った空間を楽しんできました。ランチやカフェを満喫する方や芝生でごろっと横になって本物の太陽と外の空気を感じる方、古民家園の横の坂をどんどん上っていくチームもあり、それぞれのペースで楽しめる企画として皆さんのがいい顔をたくさん見ることができました。 (管理者 柴田信)



サポートネットあすは

《移動支援・同行援護・行動援護・居宅介護事業》

11月23日、【ガイドヘルパー養成研修】の実習が行われ、実習生には実際のガイドヘルプでのサポートを体験していただきました。

当日は利用者、ヘルパー、実習生とも三鷹駅に集合後、浜松町駅で下車しました。駅周辺で各自昼食をとった後、徒歩10分の所にある日の出桟橋に再度集合し、水上バスで浅草に行く工程です。

13:30出航。45分間波に揺られながら隅田川を北上し、浅草へ向かいました。移動支援の最大の魅力は、一人では外出が難しくてもサポートさえあれば私たちと同じように電車やバスに乗り、行きたいところまで行けることです。好きな物を選んで買い物をしたり、思い思いの時間を過ごすことができます。実習では、実際に利用者の方に付き添い、切符を買う場面や駅で目的の電車に乗ることや、メニュー選びに注文、全体の時間配分など、利用者がそれぞれ難しいと感じることをサポートして、何をサポートしてどこを見守ればよいのか、どう声掛けをすると有効なのかなど、実践的に体感していただきます。

水上バスでは、秋の風をあびながら隅田川からの景色を楽しむ方や、じっと目を閉じて舟の揺れを体感されている方、デッキ席でドリンクを注文しヘルパーとお茶をしている方など、それぞれの楽しみ方で過ごしていました。他のお客様と紛れてしまうくらい溶け込み、あたり前の休日を楽しんでいる利用者の姿と、始め少し緊張気味だった受講生の皆さんも同じ目線で楽しまれている姿に、この事業の意味をしみじみと感じました。

移動支援にたずさわる私たちは、外出のサポートをする中で彼らのやってみたいことや望みを叶えるお手伝いをしています。それと同時に彼らを知っていただく橋渡し的な役割があります。時々大きな声を出したり、オーバーアクションになつたりして周囲が「え？」と戸惑つたりする場面もあります。中には急なアクションに「怖い」と感じる方もいるかもしれません。でも決して特別な存在ではなく、私たちと同じように楽しみ、驚き、喜び、休日を満喫しているのだということを、そしてより安心して過ごせるよう傍にサポートするガイドヘルパーという存在がいることを、ガイドでのおでかけを通して社会に伝えていきたいです。そして、こういった外出のサポートをしてくれるヘルパーがたくさん増えるよう、アピールしていかなければと思っています。

(管理者 南川雄造)



ヘルパー実習生のお二人と利用者、職員とで記念撮影

おおぞら会後援会ニュース

気候変動の影響による天災の増加や世界国内に続く情勢の不安定さに、希望的な未来を語れなくなってきた昨今。新しい年の始まりには、気持ちをあらたに少しでも明るい未来を想像し希望を持ちたいものです。本会もおおぞら会関係者の皆様にご協力をいただきながら、法人にとって支えになる活動をしてまいります。今後とも、後援会活動にお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会
会長 吉野 壽夫

会費・ご寄付 ありがとうございました

(令和7年6月1日～令和7年11月30日集約分)

★会費のご納入（敬称略）

個人80名、法人2社より、会費のご納入をいただきました。
ありがとうございました。
会費は大切に活用させていただきます。

★後援会へご寄附（敬称略）

個人9名より、後援会へご寄附をいただきました。
ありがとうございました。
ご寄附は大切に活用させていただきます。

★法人・各事業所へご寄附（敬称略）

個人18名、法人・団体3社より、法人・各事業所へご寄附をいただきました。
ありがとうございました。
ご寄附は大切に活用させていただきます。

※加入は任意です。

年会費は法人運営を応援し、法人の活動を地域に広めるため大切に使わせていただきます。
はばたけだよりの発送に際し、振込用紙を同封させていただいております。
(入会・更新済みの場合も同封しておりますことをご了承ください)

後援会へご入会・ご更新をお願いいたします

年会費 個人…2,000円 団体…10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか
下記の口座にお振込みください

郵便口座 00160-0-39163

口座名義： 社会福祉法人おおぞら会後援会

information

支援スタッフ募集!

採用条件、労働条件等の詳細については、おおぞら会本部へ直接お問い合わせいただくか、東京都福祉人材センターのホームページ、または「ジョブメドレー」などのサイトで検索してご確認できます。

人と関わるのが好きな方
タフでガッツのある方
大歓迎です!

短時間や夜間帯のお仕事で週1回から始められます

グループホーム(知的障害・身体障害)



宿直/夜勤(16:00~翌10:00) *泊まり手当がつきます
早番(7:00~10:30)、遅番(15:00~20:00)

[業務内容] 身体介助、家事全般、見守り支援等

…それぞれ活躍できる現場があります!

**法人のこと、施設のこと…わからなくて迷っている方は、
まずは見学からどうぞ。**

おおぞら会本部

0422-30-5571 (中野)まで

働き方いろいろ

正規職員・契約職員(常勤)
パート職員・アルバイト



社会福祉法人おおぞら会

・アケティビティセンターはばたけ(生活介護事業)	三鷹市野崎3-17-9	tel 0422-32-3234
・工房時(就労移行事業・就労継続B型)	三鷹市野崎2-6-41	tel 0422-30-5571
・野ざきの家(小規模多機能型居宅介護事業)	三鷹市野崎2-6-41	tel 0422-30-5575
・サポートネットあすは(移動支援[居宅介護]事業)	武蔵野市八幡町3-3-26	tel 0422-36-5151
・あすはKids(放課後等デイサービス)	武蔵野市八幡町3-3-26	tel 0422-36-5151
・つなぐなかまの家・さくらハイツ・つむぎの家(共同生活援助)		tel 0422-26-1320

退職をした同僚が戻ってきた。これまでにも例はあるのだが、やはり「またここで働く」と思ってもらえるというのは、ずっと勤め続けている側からすると純粋にうれしい。今回戻ってくれたのは一緒に働いていた期間より彼女が退職をした後「友だち」として過ごした時間のほうが遥かに長く、「彼女がいてくれたらな」と復職を願う気持ちと、仕事を離れたところで気を許せる友としていたい気持ちとで、少しばかり揺れ動いた。私から誘っておいてなんともおかしな感情だが、私の年齢になると自分の中で友人の範囲が狭まり厳選していくところがあり、彼女は私にとってその貴重な一人でもあるからだ。しかし、まあきっと大丈夫と思える年月を友人として過ごしてきたので、これからも上手に切り替えつつ変わらない関係でいたい。今の大事が一山越えたら、また一緒に旅行にでも行きたく思っている。

(いりくらあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷3-1-17-102 (発行 50円)

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者:入倉暁子